

## 図們江地域協力開発計画概要からみた中国の地域発展戦略の実態

ERINA 経済交流部・調査研究部研究員 穆堯芋

2010年4月、中国図們江地域協力開発計画概要（以下計画概要）の現状と課題を調査するために、延辺朝鮮族自治州、長春と北京を訪れた。今回の訪問は、中国における地域発展戦略の実態調査の一環として、吉林省の事例を取り上げて実施した。中国政府は近年頻繁に地域発展戦略を打ち出しているが、その策定プロセス、実施手法、評価などについて必ずしも明らかにされていない。今回は各地域の大学・政府機関、シンクタンク、工業団地などを訪問し、計画概要の実態を調査して地域発展戦略への理解を深めることを目的とした。調査結果について別途論文としてまとめるが、先に視察報告を行いたい。

### 1. 計画概要の概要

計画概要は2009年8月に国務院に承認された発展戦略である。吉林省の地理的・経済的特徴が国に認められ、全国で唯一に認可された国境地域中心の発展戦略である。計画概要では、長春市－吉林市－図們江地域（以下長吉図、図1参照）の開発が全国の「沿辺地域」（内陸国境沿い）の発展に有効なモデルを提供することが期待されている。計

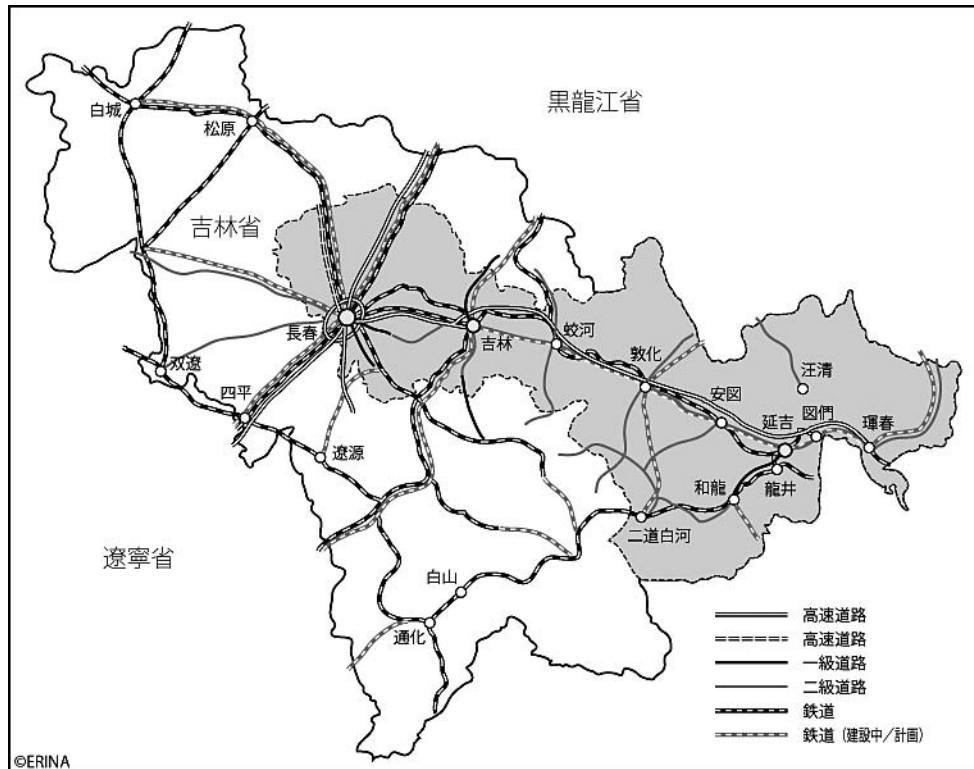
画概要は2009年から2020年までとされており、産業振興、インフラ整備、制度改革、地域間協力の推進、国際協力の強化などが挙げられている。以下訪問の時間軸に従い、地域別で計画概要の進展と課題を記述する。

### 2. 延辺朝鮮族自治州

延辺朝鮮族自治州では州政府所在地の延吉市及びロシア・北朝鮮と国境を接する琿春市を訪れ、現地の大学、政府機関、工業団地を訪問した。

延辺朝鮮族自治州の訪問では、計画概要における「先行先試」（先に試み、先に行う）の進展が議論の中心となった。「先行先試」は近年中国の地域発展戦略に頻繁に出る言葉である。国は地域の発想を大事にし、地域から提言されたものについて既存の事例・法律はなくても先に試みることができる政策である。地域の試みがうまく行った場合はそれを全国に適用し、国全体の政策とする。計画概要では、延辺州に対して沿辺地域の発展の方向性を模索し、国際開発協力の経験を積み、全国に先進事例を作る役割が期待されている。

図1 中国図們江地域協力開発計画網要の関連地域



出所：ERINA作成

「先行先試」をめぐる具体的な進展は下記のとおりである。まず北朝鮮の羅津港を經由して中国の東南沿海地域に石炭を輸送する「越境輸送」が実施された。中国政府は北朝鮮政府と協議し、関税徴収なしに荷物の越境輸送を実現した。次に中国・ロシア・北朝鮮三カ国の国境観光ツアーでは、到着地でビザを取得できる「現地ビザ」の制度を取り入れた。国境観光を中心に国内他地域の観光客の誘致に寄与している。また、投資活動をめぐる土地利用の問題について、より柔軟に対処できるよう中央政府に提言する発想も出された。最後に延辺州でも労働力不足の問題が顕在化しており、北朝鮮から労働力を導入する可能性も議論のテーマとなっている。

これらの試み・発想はいずれも全国に先駆けて打ち出されたものであり、延辺州の国際協力の進展に貢献していると評価できよう。今後延辺州の経済発展を促す決定的な方策が打ち出され、「先行先試」の政策が最大限に活用されるよう期待する。

### 3. 長春

長春市への訪問は吉林省政府の関連機関、大学を中心に行われた。吉林省は計画要綱が国務院に批准されたが、計画の実行は吉林省の主導で行われなければならないと認識している。政策目標としてまず長春市と吉林市の経済一体

化を推し進め、次に延辺朝鮮族自治州が国際地域協力に参加するための経済的基盤になることが指摘された。

図們江地域の国際開発協力をめぐり、中国政府は1992年に琿春市を国際協力対象地域に指定し、1999年に延辺州に拡大し、2009年の計画要綱にはさらに長春市と吉林市を取り入れた。吉林省の2大都市、経済規模の半分以上をカバーする地域に開発戦略が形成されることは吉林省の経済発展に大きな意味を持つに違いない。

中国政府は近年、地域発展における中心都市の役割の重要性を認識するようになった。沿辺地域のみならず、吉林省の中心都市を取り入れて沿辺地域と内陸地域の経済関係を緊密化させようとしている。そのために長春市と吉林市の都市・産業・物流・情報機能をより一層強化し、長吉一体化を重要な政策課題として取り組んでいる。

計画要綱を支える具体的な投資プロジェクトについて吉林省政府は網羅的に公表していない。実施段階に入っているものもあれば計画段階にとどまっているものもあり、一概には公表できないと思われる。今後外資系企業にも参入できるように積極的に情報発信を行う必要があると考えられる。

### 4. 北京

北京では地域発展戦略の策定に参加する大学の先生やシンクタンクを訪問した。地域にとらわれず全国の視点から

みた地域発展戦略について意見交換を行い、計画要綱についても議論した。

中国ではいま地域発展戦略の策定ブームになっている。将来的にはほぼすべての省に中央政府認可の発展戦略が誕生する可能性もある。ただ、発展戦略は具体的な経済政策とは別なものである。地域発展戦略は地域発展の方向性を示すもので、個別な案件に対して国から具体的な財政政策などを規定するものではない。開発戦略の実施も国ではなく、主に地域が担当し、国が支援する形で行われる。したがって計画要綱の実施と成果も吉林省の人々の知恵を努力に依存している。「先行先試」についても地域からの提言があってはじめて国に検討される。

地域発展戦略の策定に国の専門家が関与している。現地の専門家と一緒に現地調査を行い、地域経済の特徴を理解したうえで地域発展戦略の作成に参加する。地域発展戦略の内容の構成について地域によって異なるが、全国におけ

る当該地域の重要性、発展目標、地域経済・産業発展の促進、国内他地域との連携強化、国際協力の推進、実施体制・支援政策・監査監督体制などが盛り込まれている。地域経済の特徴に重点を置きながら、国全体の経済政策も反映している。文書の表現として難しい理論と数字を避け、読みやすく、他の人に伝えやすいように工夫されている。

## 5. まとめ

延辺朝鮮族自治州は国境を接している地理的な優位を活かし、国際協力を促進して地域の経済成長を促している。吉林省政府は地域開発における中心都市の役割を重視し、長春市と吉林市の一体化を推し進めている。北京は個別な地域開発計画より、国全体の視点から発展戦略の方向性を重要視している。また、地域発展戦略の策定テクニックにも長けている。三者はそれぞれの立場があり、計画要綱に対する注力点も違うが、緊密に連携を取りながら計画を実施していくことを期待する。